

シャクヤク露地栽培 1a当りの売立て目標10万円

シャクヤクは春夏の早い時期の収入が見込めます。生育中の管理が少なく、比較的省力で栽培できます。

定植から4年程度は株の養成期間となる為、計画的な株更新が必要です。

栽培は省力ですが出荷が集中するので、導入品種の検討が重要です。※販売戦略もあるので必ずJA担当者に確認。

作型表	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目 作業								圃場準備	定植	～	定植	
2年目 作業		萌芽期		全て摘蕾							茎葉刈込み	
2年目 施肥		春肥				礼肥		秋肥			寒肥	
3年目 作業		萌芽期	摘蕾		出荷		※株の生育状況で出荷可能。				茎葉刈込み	
3年目 施肥		春肥				礼肥		秋肥			寒肥	
4年目 作業 以降同じ		萌芽期	摘蕾		出荷						茎葉刈込み	
4年目 施肥 以降同じ		春肥				礼肥		秋肥			寒肥	

ポイント	説明
原産地・分類	中国北部又はモンゴルなど寒冷地原産・ポタン科・多年草。
定植 (1a当り)	堆肥200kg・基肥NPK成分で1.0～1.5kg・pH6.0～6.5。切花後・茎葉刈込み後・春肥の年3回に分けて施用。 9～11月頃株分け又は1年養成株を定植。株の乾燥予防としてマルチや敷き藁、もみ殻散布などを行う。 例①畝間160cm株間80cmの1条植え・1a当り80株準備。 例②畝間120cm株間80cmの1条植え・1a当り110株準備。
収穫目標	1a当り1,600本収穫・目標売上げ10万円。
防除	病害虫：灰色かび病・さび病・うどんこ病・斑葉病・褐斑病・その他土壌病害。 雑草：中耕・マルチ・除草シート※除草剤は薬害が発生する可能性があります。
管理	生育ステージによっては遅霜に当たり品質低下が発生します。遅霜対策を実施。 立ち本数が多い物は株の制限を行う。※品種より異なる為JA担当者に確認する。 摘蕾：2年目は全ての蕾を取り除く。3年目は基本的には全ての蕾を取り除く。※生育状況により切花できる。 畝蕾：4年目からは出荷に向けて側蕾を早めに取り除き、立ち本数の $\frac{2}{3}$ を出荷する。※10本以上は残す。
その他	切花後は株養成の為、自然に枯れるまで大切に管理する。特にうどんこ病・斑葉病・褐斑病等注視。 葉の緑色が無くなった頃、茎葉を刈込み処分する。 次年度の新芽は開花時期頃から形成されるため、切り花後の肥料の施用は重要。 ハウス等の施設を活用した促成栽培やポリビニール被覆だけのトンネル半促成栽培も可能。
切花出荷	出荷前の灰色かび病の防除を必ず行う。 切花は早朝に行い、下葉を取るなどの調整後、品種により5本又は10本結ずつ輪ゴムで結束する。 出荷方法や出荷日は出荷規格や目揃会で確認する。切り前や水揚げの有無も出荷先に確認する。